

# 情報公開用文書（附属病院で実施する医学系研究）

（単施設研究用）

西暦 2019 年 8 月 30 日作成 第 1.0 版

<b>研究課題名</b>	遠位内転筋管ブロックを併用することによる鎮痛効果の検討
<b>研究の対象</b>	2016 年 1 月 1 日から 2019 年 8 月 31 日までに横浜市立大学附属病院で高位脛骨骨切り術後の抜釘術を受けられた方
<b>研究目的 ・方法</b>	<p>内転筋管ブロックは末梢神経ブロックの一つで、大腿中央の部位に超音波ガイド下に局所麻酔薬と投与し、膝関節周囲の鎮痛をもたらします。当院でも膝関節周囲の手術に広く使用されています。</p> <p>近年より遠位の位置で施行する内転筋管ブロックが報告され、膝の前面だけでなく後面の鎮痛ももたらす可能性が示唆されました。遠位内転筋管ブロックと言われており、当院でも一部導入しています。</p> <p>今回高位脛骨骨切り術後に抜釘術を施行された患者さんを対象に、全身麻酔に加えて、近位内転筋管ブロックだけを行った方と、近位内転筋管ブロックと遠位内転筋管ブロックを併用した方とで 2 群に分け、鎮痛効果について検討を行います。</p>
<b>研究期間</b>	西暦 2020 年 2 月 7 日（承認日） ～ 西暦 2022 年 3 月 31 日
<b>研究に用いる 試料・情報 の種類</b>	<p>本研究では診療録から以下の情報を収集し研究に使用します。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1) 手術直前の患者基本情報：年齢、性別、身長、体重、ASA-PS、合併症（高血圧、糖尿病、神経疾患）</li><li>2) 治療内容（神経ブロック施行時の paresthesia の有無、局所麻酔薬使用量、局所麻酔薬組成、手術時間、麻酔時間、ターニケット時間、術中出血量、術後ドレーン出血量、手術中の NSAIDs またはアセトアミノフェン使用の有無）</li><li>3) 手術後の評価項目（術後 24 時間以内の鎮痛薬の使用回数、術中フェンタニル、レミフェンタニル使用量、術後悪心嘔吐の有無、術後神経障害の有無、初回離床時間）</li></ol> <p>本研究で用いられた上記情報は、電子媒体で保管する場合は、パスワードを設定した電子ファイルで横浜市立大学附属病院麻酔科のインターネットに接続できないパソコンで保存します。紙媒体で保管する場合は、施錠のできる保管庫等で保管します。このパソコンや紙媒体が保管されている部屋は、入室が管理されており第三者が立ち入ることはできません。</p>

## 情報公開用文書（附属病院で実施する医学系研究）

（単施設研究用）

また、本研究に関する記録は少なくとも本研究の終了日から 5 年後又は本研究の結果の最終の公表について報告した日から 3 年後のいずれかの遅い日までの期間、上記方法で厳重に管理します。

また、保存期間終了後に廃棄する際は、パソコン上で保存している情報については保存しているパソコン端末等から完全な削除を行い、紙で保管している情報はシュレッダーにて廃棄します。

本研究に関するご質問・ご相談等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますので下記連絡先まで電話または FAX でお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはございません。

### 問合せ先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

〒236-0004 横浜市金沢区福浦 3-9

横浜市立大学附属病院 麻酔科 （研究責任者）菊池 賢

電話番号：045-787-2800（代表） FAX：045-787-2916